

※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	2 月
グループ名	ま ほ ろ ば



報 告 内 容 ※写真があれば添付	2月11日「徒然草かるた会」 参加人数17名（メンバー6名含む） 《参加者の感想》 ・徒然草なんて難しそうと思ったけれど、聞いたことのあることばもあり、楽しかったです。 ・とっても楽しかったです。我を忘れてしまっていたことが何か恥ずかしくなっていました。 ・かるた取りなんて何十年？ぶりでしょう！！ かるた作りなどの作業や準備ありがとうございました。楽しかったです。 ・かるた取り、楽しませてもらいました。はじめは取れなくて寂しくなりましたが、次第に力が入ってきて、皆さんも本気モードに。作戦立てて、目の色が変わっていたかも。
	   この会にてまほろばは修了となりました。ありがとうございました。

※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	1 月
グループ名	ま ほ ろ ば

報告内容 ※写真があれば添付	2月に行うかるた会のやり方を相談し、予行練習を行った。 1. 絵カードを広げ、絵の出来栄えを改めて褒め合い、その絵に表した兼好の思いや内容を、振り返ったり確かめたりした。 2. 実際にかかるた取りをしながらルール作りをした。 ・長めの文のカード10枚ほどを先に出し、全文を読み終えた後の「はい」を合図に、カードを取る。 ・お手つきはそのカードは休みとし、次カードは参加できる。 ・残りのカードは自由に取り合う。 3. ホワイトボードへの掲示計画や、当日の参加者に渡すチラシ作りの相談をした。	
--------------------------------------	---	---

※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	1 2 月
グループ名	ま ほ ろ ば

報 告 内 容 ※写真があれば添付	今回で最終段（第 243 段）までを読み終えた。兼好の目や心を通して私達自身の生き方や物の見方を振り返り、共有した。 ・ 2 3 6 段…丹波の出雲大社で聖海上人が感動した狛犬の向きの件で、一人合点は粗忽だが純粹無垢な人柄を感じる。 ・ 2 3 7 段…有職故実、柳筥（やないばこ）へのものの置き方、縦向きか横向きか。 ・ 2 3 8 段…兼好の自慢話七箇条。 ・ 2 3 9 段…月見にふさわしい夜は、婁宿に当たる 8 月 1 5 日と 9 月 1 3 日。 ・ 2 4 0 段…恋愛（はよい）論、結婚（はよくない）論。 ・ 2 4 1 段…幻のごとき人生、自分自身の真実の生き方に正面から向かえば末永く静かな安定した状態になれる。 ・ 2 4 2 段…人間が「楽を求める」『楽欲』（ぎょうよく）は、名声・色欲・舌の味わいである。 ・ 2 4 3 段…兼好 8 歳時、「仏」についての父親との問答の思い出。自身で問いを発し答えを模索していく過程の徒然草。
---------------------------------	--



※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	1 1 月
グループ名	ま ほ ろ ば

報告内容	全カードそろった「かるた」の確認作業を行い、言葉と絵を照らし合わせながら出来具合について批評し合った。  第2 3 1 段から2 3 5 段までを読み、書かれている内容から当時の人々の様子や兼好の思いなどについて話し合った。 ・ 2 3 1 段…園の別当入道は包丁の名人で百日続けて鯉を切る？気取った振る舞いをせず、自然で安らかな方がずっとよい。 ・ 2 3 2 段…小賢しさ、知ったかぶり、生半可、気取りなどせず、人は無知無能であるべきものだ。 ・ 2 3 3 段…何事も誠実に他人を敬い、故與羽が少ないのがいい。 ・ 2 3 4 段…知ったかぶりもよくないし、知りたがっている人には明晰明確で裏表のない態度が好ましい。 ・ 2 3 5 段…心とはうつろな場所で、雑念が住み着くところ。心の実体を探求したい兼好がこの段で実態を掴んだ。
------	--

※写真があれば添付

※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	1 0 月
グループ名	ま ほ ろ ば

報 告 内 容 ※写真があれば添付	持ち寄った「かるた」の確認作業、 未作成分のカード分担、 確認済みのカード提出をした。    第 2 1 9 段から 2 3 0 段までを読み、書かれている内容から当時の人々の様子や兼好の思いなどについて話し合った。 ・ 2 1 9 段…横笛の調子 ・ 2 2 0 段…四天王寺の鐘の音を基準とする舞楽 ・ 2 2 1 段…賀茂祭の「付け物」 ・ 2 2 2 段…亡き人の冥福を祈る呪文 ・ 2 2 3 段…「たづ君」とは ・ 2 2 4 段…広い庭には植栽を ・ 2 2 5 段…白拍子の起源 ・ 2 2 6 段…「平家物語」成立の考証 ・ 2 2 7 段…六時礼賛 ・ 2 2 8 段…釈迦念仏 ・ 2 2 9 段…良き細工は鈍い刀を使う ・ 2 3 0 段…清涼殿の化け物
---------------------------------	---

※翌月、5 日までにデータで提出ください。

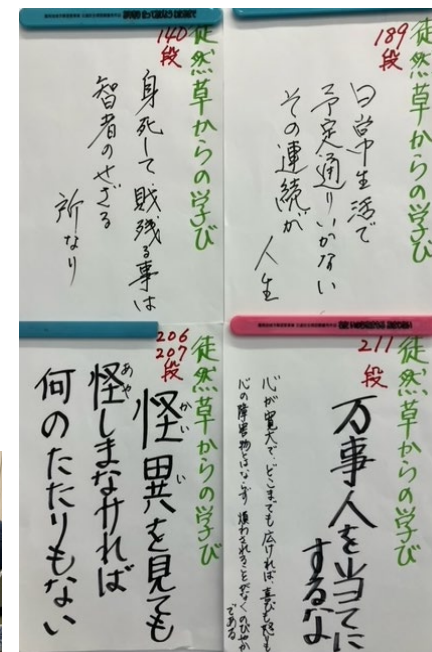
報告月	9 月
グループ名	ま ほ ろ ば

報 告 内 容 ※写真があれば添付	徒然草から学んだことを「かるた」にする作業を話し合い、メンバーでカードづくりを分担した カードの例  第 2 1 4 段から 2 1 8 段までを読み、書かれている内容から当時の人々の様子や兼好の思いなどについて話し合った。 ・ 2 1 4 段…雅楽の楽曲「想夫恋」の題名の正しい由来「相府蓮」 ・ 2 1 5 段…最明寺の入道・北条時頼のエピソード 普段着の平宣時を酒の相手 ・ 2 1 6 段… 同上 足利義氏の手際のよい饗応ぶり ・ 2 1 7 段…大福長者の哲学五か条 ・ 2 1 8 段…狐は人間に食いつくものだ 
---------------------------------	--

※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	7 月
グループ名	まほろば

報告内容 ※写真があれば添付	徒然草第 2 0 6 段から 2 1 3 ・段までを読み、書かれている内容から当時の人々の様子や兼好の思いなどについて話し合った。 ・ 2 0 6 段と 2 0 7 段…怪異を見てもそれを怪しまなければ怪異は消滅するー藤原実基の判断力.処理能力 ・ 2 0 8 段…経の巻物の結び方ー最近のやり方ではなく寺院に伝わる故実を正しく伝える記事 ・ 2 0 9 段…曲がったことを命じられてしなければならない使用人の屁理屈 ・ 2 1 0 段…喚子鳥とはどんな鳥か、鶴か鶴鳥（トラツグミ）か、きちんと書いた文献はない ・ 2 1 1 段…万事人を当てにするな、柔軟な精神が人間本来のものである ・ 2 1 2 段…秋の月が素晴らしいと気づく美意識の繊細さを大切に 2 1 3 段…火鉢に炭を注ぐ際の作法ー火箸か素手か （8 月は活動休止です）
------------------------------	--



※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	6 月
グループ名	ま ほ ろ ば

報 告 内 容 ※写真があれば添付	徒然草第 1 9 5 段から 2 0 5 段までを読み、書かれている内容から当時の人々の様子や兼好の思いなどについて話し合った。 ・ 1 9 5 段、1 9 6 段…源通基が若い頃は故実に通じて確固とした判断ができたが、晩年は常軌を逸した行動を取ったこと ・ この後は有識故実が続く。 1 9 7 段は「定額の女じゅ」「定額の僧」、 1 9 8 段は「源氏物語・揚名の介」、 1 9 9 段は「音階」、2 0 0 段は「宮中の二種類の竹」、 2 0 1 段は「卒塔婆」、2 0 2 段は「神無月」、 2 0 3 段から 2 0 5 段は法令。
--	--



＜カルタに書くことばをプリントに書き出しているところ＞

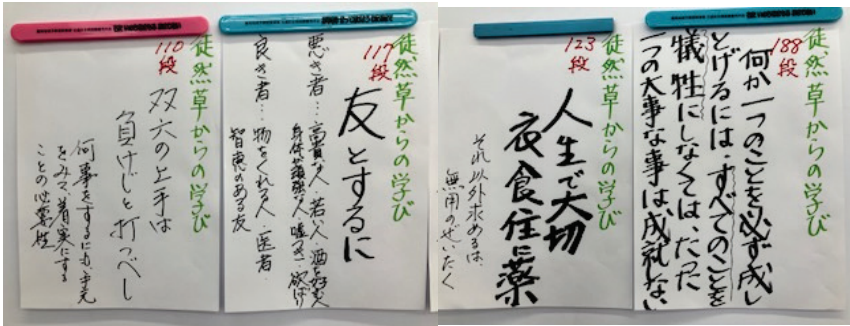
※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	5 月
グループ名	まほろば

報告内容	徒然草第 1 8 8 段から 1 9 4 段までを読み、書かれている内容から、当時の人々の様子や兼好の思いなどについて話し合った。 ・ 1 8 8 段…すべてのことを犠牲にしなくては、たった一つの大事なことは成就しない。 ・ 1 8 9 段…日常生活は予定通りに思惑通りに進むことは滅多になく、その連続が人生。 ・ 1 9 0 段…兼好は結婚否定論者。「妻というものを決して持ってはならない。」 ・ 1 9 1 段…徒然草のノクターン章段。夜の持つ何とも言えぬ情趣、夜こそが素晴らしい。 ・ 1 9 2 段…人がお詣りしない日、しかも夜参りがよい。 ・ 1 9 3 段…自分の分野以外は争ってはならない。 ・ 1 9 4 段…達人が人を見る目は、少しも見誤らない。 学びを広める・・・学習を振り返り、かるたにする言葉さがしや、4 つの段からの学びをホワイトボードに掲示した。
------	---

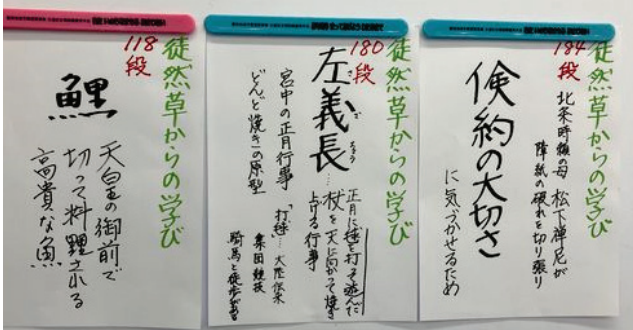


5 月 8 日の話し合い風景



※翌月、5 日までにデータで提出ください。

報告月	4 月
グループ名	まほろば

報告内容	徒然草第 1 7 6 段から 1 8 7 段までを読み、書かれている内容から、当時の人々の様子や兼好の思いなどについて話し合った。 ・ 1 7 6 段…黒戸の由来（有識故実～ 1 8 2 段まで ・ 1 7 7 段…雨後の蹴鞠の土（鎌倉と京都の違い ・ 1 8 0 段…正月行事「左義長」（打毬杖を焼くどんどこ焼きの原型） ・ 1 8 1 段…^{こゆき}粉雪 搗いた米を篩にかけた粉 (保存・芋穴・食料不足・麦から芋へ等現在の社会情勢へと話が広がった) ・ 1 8 4 段…北条時頼の母 松下禅尼 (破れ障子の継ぎ張りで、若い時頼に俣約の大切さを気づかせた) ～ 1 8 7 段…名人・達人とは（人間の生き方を模索する兼好の姿が見える）	 
------	---	--

※写真があれば添付